愛知県被災者支援センターニュース　第143号　令和５年４月25日発行

あおぞら

発行:愛知県被災者支援センター
住所:名古屋市東区泉 1-13-34
名建協２階
TEL:052-971-2030
FAX:052-971-2050
開館:月曜～金曜　10時～17時

2023年度も引き続きよろしくお願いいたします！

愛知県被災者支援センター長　栗田暢之

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」に移行することが決定しました。引き続き感染対策には万全を期しつつ、当センターが実施する交流会等の諸事業は、コロナ禍前のように、できるだけ皆様とお顔をあわせて開催できるようにしていきたいと思っています。直接お会いしておしゃべりできる当たり前の喜びを、改めて皆様と噛みしめ合いたいと楽しみにしております。

時に、コロナより恐ろしい戦争が続いています。命の危険を避けるため、愛知県にも100名を超えるウクライナの方々が遥々来られています。当センターを主管するNPO法人レスキューストックヤードの事務所には、避難民を支援するための拠点を設けています。そんな中、長年有志で続けられている「パッチワーク教室」と、ウクライナの有志の方による「刺繍（ししゅう）の会」がコラボし、互いに腕自慢を披露しあったり、刺繍にもチャレンジしたりするなど、とてもいい時間を過ごされています。お昼には、思い思いの郷土料理を持ち寄ることもあり、「ｃｍａｃｈｏ（スマチノ・ウクライナ語で「おいしい」)」「餃子みたいね！」などと盛り上がっています。

コロナの一応の収束に加え、ようやく暖かくて清々しい季節になりました。こうした交流の輪に加わっていただくことも大歓迎ですし、近くにお越しの際にぜひ当センターへお立ち寄りください。

13年目の今年度も、より積極的に皆様とともに歩んで参ります。引き続きよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症

マスク着用について　（2023年３月13日～）

（愛知県のホームページより作成）

～ 基 本 方 針 ～

- 個人の主体的な選択を尊重し、個人の判断が基本
- 症状がある場合等で通院等やむを得ず外出する場合は、人混みは避け、マスクを着用
- 感染防止対策としてマスクの着用が効果的な場面では着用を推奨

マ ス ク の 着 用 が 効 果 的 な 場 面

医療機関	医療機関受診時・訪問時・医療機関従事者については勤務中
高齢者施設・障害福祉サービス事業所	高齢者施設等の訪問時、施設等従事者については勤務中
公共交通機関	混雑した電車やバスに乗車する時

もくじ

〈臨時縮小版〉

P1．新年度のご挨拶（愛知県被災者支援センター長）
P2．お花見交流会
P3～4.ユース東北交流ツアー①、イベント情報、編集後記

新型コロナウイルス感染症が心配な時の看護師による一般相談窓口　愛知県感染症対策局感染症対策課

電話：052-954-6272

時間：9:00～17:30

お花見交流会

3 月 26 日(日)10：00～14：00、東部地域療育センターぽけっと(名古屋市千種区)を会場にお借りして、お花見交流会を開催しました。今回の交流会は、震災･原発事故による県外避難者自主グループ「めぐりあいの会」と、東日本大震災被災者支援ボランティアセンターなごや「お茶っこサロン」、愛知県被災者支援センターの三団体による初めての共催で行われました。参加者は 16 世帯 23 名でした。

お花見にはあいにくの雨天でしたが、施設内でテーブルを囲んでおしゃべりの花が咲きました。避難当事者の手作りのパッチワークやアクセサリー、皮工芸、イラスト作品の展示、インドの笛の演奏、ボランティアによるサキソフォン演奏、学生ボランティアのハンドマッサージなどもあり、それぞれに楽しい話で盛り上がっていました。昼食の準備は雨の降る園庭に建てたテントの中で、「めぐりあいの会」の豚汁、ラーメンが湯気を立て、ボランティアセンターなごやのみたらし団子の香ばしい匂いに、被災者支援センターは地元食材を使ってせりご飯を作り、皆さんに好評でした。

＜アンケートより抜粋＞

- 「楽しい一日を過ごさせていただき、ありがとうございました。コロナとか自分の病気のこともあり、「うつ」になりかけたけど、皆さんのお陰で頑張っております。なつかしい顔を見てうれしかったです。ありがとう、感謝です。
- 久しぶりの参加で、とても懐かしい雰囲気でした。焼きたてのお団子も美味しかったです。雨天ながら、庭の桜もきれいで、とても満足です。
- とても楽しく参加させていただきました。雨の中、心のこもった昼食をいただき、皆様のおもてなしに感謝です。心に染み入る音楽もとても良かったです。本当にありがとうございました。
- 焼きたてのお団子、最高でした！花より団子⁉ですね‼　コロナ明けで、久しぶりに拝見する方が多く、懐かしい気持ちになりました。おかげさまで、名古屋での生活も 11 年目‼家族 5 人、元気に暮らせています！愛知の皆様に感謝‼
- KOTA さんの演奏が素晴らしかったです‼ハンドマッサージをしていただいた学生さんたちにも、感謝でいっぱいです。お話をしながらゆったり過ごせて、いろんな人とかかわりを深めていくのは、良いことだなぁと思いました。素敵な時間をありがとうございました。普段、決まった人たちにしかおしゃべりをしないので、同じ思いを持った方たちと話せることができて、元気が出ました。Thank you.（桜のイラスト）

インドの横笛の演奏

アロマハンドトリート

サキソフォン演奏

パッチワーク

イラスト

ビーズ

皮工芸

交流会場

みたらし団子･豚汁･ラーメン

せりご飯の盛り付け

連載//ユース東北交流ツアー①　東北を考え続ける(岩手・宮城編)　さいとうえな(名古屋大学大学院)

〔＊おことわり：本文はさいとうえなさんのブログから抜粋させていただき、(…) は省略した部分です〕

私は 2023/3/10 から 3/13 までの三泊四日で、**岩手、宮城、福島を巡る東北交流ツアー**に参加してきました。このツアーは被災経験のある人を含めた若い世代を対象として実施されました。東日本大震災で被災した地域について今一度学ぶために開催されたものです。主催は名古屋の認定 NPO 法人 RSY(…)で、私自身が 12 年前に被災した経験があり、愛知に引っ越してきた時からなんとなく知っていたからです。本格的に RSY と関わり始めたのは 3 年前くらいです。RSY が「被災して避難してきた、当時子供だった人たちの体験をきちんと記録に残したい」ということを知り、アンケート調査に参加したことがきっかけです。(…)

私は参加するずっと前にヒアリングのとき「せっかく東北に行くなら、勉強してから行きたい」と伝えていて、それは他の参加者の方からも上がっていた声でした。それを踏まえて RSY は 3 回にわたる勉強会を開催してくれました。特に、原発についての勉強会にとても力を入れてくれました。知識が偏らないように複数の大学や団体、そして異なる研究内容の方々を講師として呼んでくれたことで「原発事故に関しては専門家でも意見が一致してない部分も多くあるんだ」と知りました。

私は第一回と第二回の勉強会に参加して、基礎的な知識を学んでからツアーに行くことができました。知識を少しでも蓄えてから現地に行くことができたのは結果としてかなり良かったです。実際に色んなものや場所を見る時、知識を思い出そうとする瞬間に冷静な視点になれる上に、知識や情報だけでは分からない部分にも気付くことができました。

ではツアーで記憶に残った場所や出来事を少しずつ書いていこうと思います。全部書くことはできないので、深く印象に残ったところだけ取り上げます(それだけ学びが多かった四日間でした)。

1 日目は岩手県陸前高田市に行きました。私は陸前高田市を訪れるのが初めてで、その場所が元々どんな場所なのかよく知りません。バスを降りて**「東日本大震災津波伝承館」**という建物の敷地で、陸前高田市の津波による被害などの説明を受けました。海から吹いてきた風がとても強く、寒さで震えながら説明を受けました。そう、今回の四日間では被災地をいくつか回りましたが岩手と宮城では風がとても強くて冷たかったんです。東北って寒いなぁと久しぶりに帰って思っていたのですが、語り部の方々の話を聞いて分かったんですよね。「津波でおおかた全ての建物や植物が流されて、海と私たちの間を隔てるものが全然無いから」、海風が強いのだということが。これって当たり前なんですよ、少し考えれば。でも実際に津波で全てが奪われた町で海沿いを歩きながら説明を聞かないと体感できない事実だなと思いました。これに気づいたとき、ここに来ないと分かんなかったんだなと自分で驚いてしまいました。(…)震災前は七万本の松があったのに生き残ったのは一本で、それは奇跡の松の木として知られているそうです。(…)

私たちは陸前高田市の語り部さんにお話を聞きながらこの海沿いを散歩して回ったのですが、その説明の前にまず行った場所が「津波発生時の避難経路の看板」だったのが印象に残っています。(…)その語り部の方の引率で次に向かったのは**「気仙中学校」**でした。気仙中学校は陸前高田市の**震災遺構**です。震災遺構は震災で建物は被害を受けているけど、次世代にも語り継ぐため、そして記憶からなくならないために取り壊さずに保存をすると決められた場所のことです。(…)学校の中はめちゃくちゃで、津波で学校外から色んなものが流されてきていました。椅子が天井に引っかかったりドア枠が無かったり、海の方から流れてきた漁業用の網が引っ掛かったりしていました。津波の被害を受けた場所は津波の脅威がありありと残っているのにとてもとても静かで、そのバランスがとても恐ろしかったです。(…)

2 日目は宮城県石巻市の南浜復興祈念公園や石巻市の**震災遺構である門脇小学校**や**日和山**に行きました。まず同世代の語り部の方の引率で門脇小を見学したり、実際に彼が避難した時の避難経路をみんなで歩くなどの体験をしました。(…)明らかに、高齢者や足腰の強くない方、車椅子利用者の方にはあまりに過酷な道のりでした。語り部の方が言っていた「この過酷な避難経路によって避難を諦めて流された方が大勢いるだろう」「避難経路が実際に震災に見舞われたときに若い人以外にも有効な経路なのか、などは常に考える必要がある問題」という話がとても印象に残りました。本当にそうだと思います。一人でも多くの命が助かるような避難経路作りはこの震災が多く起きる日本だからこそもっとちゃんと話し合われていくべきだろうと思いました。

この日の午後は**石巻市の追悼式**の準備ボランティアに参加しました。私たちは灯籠を並べたり、追悼式の時に行うバルーンリリース用のバルーンを手渡すお手伝いをしました。私は昨年の 3 月に震災以来初めて、震災の時期に被災地で過ごしました。私にとってはあまり帰ってこようと思える時期ではなかったのですが、10 年以上経って少しずつ自分の被災体験と向き合えるようになってきたように感じます。12 年目の 3.11 はとうとう追悼式に参加するということで、前日からなんとなくぼーっとしていたように思います。(…)私は黙祷の時、ただ全ての津波で亡くなった方のご冥福を祈っていました。黙祷が明けると少し心が落ち着きました。バルーンリリースの時は、天に昇って行ってしまった人たちの命のように見えて寂しく感じました。でも私たちはあの日を忘れていないよ、という気持ちを風船が届けてくれるような気にもなりました。

そのあとは**七ヶ浜**という町に行きました。(…)もう 12 年も経った(まだ、かもしれない…)ので震災のことを知らない子ども達がたくさんいます。そんな中でどのように震災の恐ろしさや防災の重要性を語り継ぐか、というのは重要な課題だと思います。私も石巻の小学 6 年生の子達に向けて一度語り部をしたことがあるのですが、上手く伝わったのかどうか少し心配でした。

(福島編は次号につづく)

【イベント情報】　＊開催・内容等が変更になることがあります。詳しくはチラシでご確認ください。

開催日	イベント名	内容（主催など）	会場
5/13（土） 10:00～11:30	**あおぞらカフェ 「ハーブパック」**	クレイとラベンダーでハーブパック作り。主催:あおぞらカフェ実行委員会	オンライン開催
5/14(日) 10:00~15:00	**岩手県宮城県 気軽にお茶飲み交流会**	互いに近況を報告し合い、癒しコーナーや公園の散策を楽しもう！主催：同実行委員会	東海市しあわせ村
5/28 (日) 10:00～15:00	**甲状腺エコー検診 ＆交流相談会**	共催:愛知県民主医療機関連合会＆愛知県被災者支援センター	千秋病院(一宮市)

【編集後記】

・職場にミャンマーの方が数人おられ、せめて「ありがとう」ぐらいはミャンマー語でと思い、覚えたつもりの単語が出てきません。数秒後に思い出しても、いつもタイミング遅れで、もう～情けない…(T.S)

・①初夏みたい 上着を取ってあの人は　もう半袖がすっかり似合う　②菜種梅雨 昨日も今日も雨になり 洗濯物がさっぱりせず　③ユキヤナギ 桜タンポポ チューリップ 白いモクレン大好きな春(T.H)

・東北の桜が例年より 2 週間も早い満開とか。これは気候変動で将来が危ぶまれる。北極圏や永久凍土が溶け、排出されるメタンガスが地球温暖化を加速するという。個人の努力を越える大きな問題。(T.K)